

# ともすみ21

第2巻 第5号

発行日 2026年1月15日

## 「共生社会研究」再刊記念イベント開催

### 「共生社会」とわたしたちの 思いについて

- 私たちの研究会では、「共生社会」を「多様な背景をもつ人々が尊厳をもって生きることができる公正な社会」と位置づけています。
- その実現には、構造的に存在する不平等の可視化や抑圧と搾取に立ち向かうトランシナショナルな社会的連帯のための理論の構築が不可欠です。
- そうした社会を変革していく力を作り出していくために「共生社会研究」を進めています。

### 目次：

Community College for Women (CCW) 設立構想	2
CCW設立記念講演 「船橋 邦子さんの訴え」	2
定例交流会、半年の ふりかえり	3
社会保障政策とベーシックインカムの研究	3
「私の研究・活動」 大学教員らの労働闘争	4

2026年2月、本研究会の機関誌が発刊されます。発刊を記念し、多文化共生をテーマにフォーラムを開催します。以下のような内容で行う予定ですが、詳細が確定次第、改めてウェブサイトなどを通じて、皆様にお知らせします。是非ご参加ください。

### 地域における多文化共生の取組み ～ IKUNO多文化ふらっとの挑戦～（仮題）

- 日 時：2026年2月28日（土）13:30～16:50
  - 開催概要
  - ・メインゲストに、多文化共生に尽力されている「特定非営利活動法人 IKUNO多文化ふらっと理事・事務局長の宋 悟さん」をお招きし、ご講演と鼎談を企画中です。
  - ・あわせて、コリアタウン（生野区御幸通商店街ほか）のまち歩きと、「（愛称）いくのパーク（御幸森小学校跡地利用）」の視察見学を行います。
  - ・参加費は会員1000円、非会員（一般参加）1500円
- なお、終了後、希望者はコリアタウンで交流懇親会（参加自由、実費精算）あり

近代以降、多くの朝鮮半島出身者が労働力として大阪に流入。彼らの多くは現在の生野区と東成区にまたがる「猪飼野」と呼ばれた地域に住み、日本最大の在日コリアンコミュニティを築いていった。幾多の変遷を経て、現在、生野区には約80か国の外国籍住民が居住（2025年9月末現在人口127,992人中30,984人が外国籍住民）。地域住民の生活を支えてきた御幸森商店街は「大阪コリアタウン」として整備され、年間約200万人の人々が訪れるなど、まちは大きく変貌している。2023年には、「特定非営利活動法人 IKUNO多文化ふらっと」の提案により、廃校となつた御幸森小学校跡地を丸ごと活用した「（愛称）いくのパーク」が誕生。多文化共生のまちづくり拠点として、さまざまな取組みがなされている。

今回は、こうしたまちの歩みと人々の暮らし、NPO・事業者・行政の協働による多文化共生のまちづくりを体感する機会とします。

大阪市立大学共生社会研究会副会長 田中逸郎

## 機関誌「共生社会研究」、2月に再刊第1号

大阪市立大学共生社会研究会は、コロナ禍の影響などにより、活動が中断し、研究誌の発行も2020年の14・15合併号を最後に、刊行できない状況が続いていました。しかし、昨年初めから活動再開を本格化させたことにともない、研究誌の再刊に向け、「編集規定」の策定や査読体制作りを進め、機関誌「共生社会研究」として再発行できることになりました。これも会員をはじめとした皆様のご協力のおかげであり、深く感謝しています。

再刊される研究誌は、従来の「紀要」から「機関誌」に名称を変更しています。内容としては、これまでの研究誌の趣旨に基づき、共生社会やNPOに関連する教育研究、実践活動に関する論文や報告を掲載していくことになります。再刊第1号は、特集の形で記念論文と今年1月10日に開催した船橋邦子さんの記念講演の講演録、投稿論文などを盛り込み、2月末にウェブジャーナルとして発行の予定です。今後の継続的な発行のためにも、皆様のご支援、ご協力をお願いします。

大阪市立大学共生社会研究会会长 柏木宏

## 研究会の部会活動の紹介

大阪市立大学共生社会研究会では、2025年度の総会の決議に基づき、Study Group(部会)の活動を推奨しています。共生社会とNPOに関連して、特定の研究領域や教育内容などについて、特化した活動を進めていただくためです。2025年5月には「定例交流会」が立ち上げりました。共生社会の研究に寄与する、研究のノウハウの紹介や意見交換を行うため、原則として2カ月に一度、オンラインによる「交流会」を開催しています。また、12月には、ジェンダー問題に焦点を当てて、教育研究、社会啓発などを進めるCommunity College for Women (CCW)部会が立ち上りました。また、新たな部会の立ち上げを希望されている会員の方もいらっしゃいます。今回は、これらの活動を進めている方々から、活動報告や参加の呼びかけをいただき、掲載しています。これらを参考に、部会の活動への積極的な参加、あるいは新たな部会設立への参考にしていただければ幸いです。

2026年1月15日  
大阪市立大学共生社会研究会 会長 柏木宏

## CCW (Community College for Women)設立構想

○ 背景や問題意識として、日本社会は今、急速な人口減少・高齢化、産業構造の変化、労働力不足の渦中にあります。人生100年時代と言われる昨今、人生の途中で、何度も学び直し、未来を切り開いていく身近な教育の場の拡充が喫緊の課題となっています。日本のジェンダーギャップ指数は、2025年版で世界148カ国中118位と女性の地位の低さが際立っており、特に経済分野(管理職比率や賃金格差)と政治分野で低いという特徴があります。そのためにもCCWは、女性のエンパワメントとリーダーシップにつながる講演会やセミナー、育成プログラムの開発に向けた調査研究を行います。

経験豊富な講師陣による実践研究を重ねます。

○ CCW (Community College for Women)設立の社会的意義を次のように考えます。  
①諸外国(80カ国余)に実現されている中間的教育機関を日本での実現  
②女性の人生を豊かにし、経済社会への積極的参画への貢献への貢献  
④女性の社会への積極参画で平和への貢献

大阪市立大学共生社会研究会理事  
金谷千壽子



## CCW設立記念講演 「船橋 邦子さんの訴え」

2026年1月10日、115人の申し込みをいただき、CCWの設立記念講演、「動く、繋がる、新しい創造～生きるためにのフェミニズムを求めて」が始まりました。

まず、2026年の幕開けに、「私たちはどんな時代を生きているのか」という問いかけがありました。戦火が激しくなった新年、一方で女性たちは粘り強く戦争をなくす努力を重ねている、そんな今なのだと指摘があり、身の引き締まるスライドが続きました。そしてフェミニズムの旅路をたどります。女性学との出会い、アジアの女性たちとの連帯、国際的なフェミニストたちとの連携が拡大していく하겠습니다。しかしその矢先に始まったバックラッシュの動きにわが国の女性たちの活動は一瞬、立ち止まつたかに見えました。その後、力を貯め、戦略を練りもう一度歩もうと呼びかけます。

「沈黙は性差別を許すだけ、社会をえることはできない」「えるのは行動と連帶」「フェミニズムは生きるためにの力、生きるとは行動すること」をモットーに、つぎにバトンが繋がり、フェミニズムが差別と抑圧に苦しむ女性たちの真の力になることを切に願います、と言ってマイクを置いたのでした。

船橋邦子さん  
プロフィール



お茶の水女子大文学部卒 東京大学大学院では東大闘争に参加 大阪女子大女性学研究センター教授、和光大学を教授 佐賀県立女性センター・生涯学習センター初代館長 北京JAC(世界女性会議ロビингネットワーク)代表

## 定例交流会、半年のふいかえり

2025年度から、IT担当理事(宮本/古山)で相談し、オンラインでの定例交流会を隔月ペースでスタートさせました。初めての試みで参加者が集まるかどうか不安でしたが、蓋を開けてみると最も多い回では151名もの申し込みがありました。

研究発表やシンポジウム等との内容的な棲み分けをはかるため、テーマ選びでは「教育セミナー」の要素を明確にし、共生社会の創造やNPOの運営に役立つHow to 的なものを取り上げたことが、参加者を多く集める要因になったと分析しています。1月は、他の企画もあるためお休みしますが、今後も適宜このような機会をつくっていければと思っています。

あわせて、研究活動がより活発になることを願い、各回の終了後には記録として残すためのビデオ編集も行っています。話題提供者の皆さまには、アーカイブ化の可否について事前に企画担当へお知らせいただけると助かります。アーカイブ公開を希望されない場合にも、その意向を尊重して対応いたしますので、どうぞ遠慮なくお申し出ください。

なお、アーカイブ公開を前提とする場合には、編集作業の都合上、前提となる理論や定義を簡単に補足していただきたいり、可能であれば視覚的な資料をご用意いただきたりすると、視聴される方にとって理解しやすい動画になります。編集を前提とした場合、話すスピードや間合いの取り方なども、聞き手にとって理解しやすい動画づくりに大きく寄与しますので、無理のない範囲で意識していただければ幸いです。

最後に、これまでに開催したテーマ等を表にまとめました。本研究会の公式YouTube チャンネルにて、是非ご覧ください。また、ご感想やご意見、取り上げて欲しいテーマや話題提供者のリクエスト等もお待ちしております。

大阪市立大学共生社会研究会 理事 宮本年也・古山陽一

	開催日	申込数	テーマ	話題提供者(敬称略)
1	5月15日(木)	151人	インクルーシブなスライド作り～2024年障害者差別解消法改正の施行を踏まえて～	古山 陽一(国際医療福祉大学 専任講師)
2	7月15日(火)	37人	苦手克服！プレゼン技術～「情報デザイン」の技法を使いこなそう～	同上
3	7月28日(月)	17人	共生社会研究における研究倫理を考える～「人を対象とする医学系研究倫理指針」を手がかりに～	宮本 年也(藍野大学 教授)
4	9月25日(木)	27人	少数意見を可視化し、公正に意見をまとめるファシリテーション・グラフィックの実際	薮田 雪子(薮田雪子事務所 代表)
5	11月25日(火)	14人	共生社会研究会の機関誌再刊に当たり、査読者と投稿者が学び合う査読をどう進めるか	柏木 宏(大阪市立大学 名誉教授)、田中 逸郎(NPO政策研究所 理事・研究員)

## 社会保障政策とベーシックインカムの研究 共同研究者として一緒に部会活動を始めませんか？

共生社会研究会会員の皆様へ。

本会会員で、NPO法人近畿地域活性ネットワークと関西社会保障政策とベーシックインカム研究会の代表をしています、中山鹿次です。

以前、『共生社会研究に』ベーシックインカムについての論考を書かせていただきました。その後も社会政策学会、貧困研究会、日本ベーシックインカム学会で、ベーシックインカムだけでなく、介護や住居保障など社会保障に関する研究発表を継続的に実施しています。

自分が主催者の関西社会保障政策とベーシックインカム研究会を年3回程度開催し、読書会やゲスト講師を招いてセミナー開催しています。ぜひご参加ください。2026年は1月18日(日)にエルおおさか研修室で、第7回目の研究会を開催いたします。なおその案内と過去の活動は以下のブログでご確認ください。

<https://ameblo.jp/yamashika1959/>

この研究会の部会(Study Group)ひとつとして「社会保障政策とベーシックインカム」を作っていたいただき、意見交換できればと考えています。ベーシックインカムは社会保障のみならず、労働問題や哲学議論としても、意見が分かれますし、年金問題や、ベーシックインカムの対抗策であるベーシックサービスや、ベーシックアセットなど、共生社会を考える上で、興味深い論点が多いです。関心のある方は、以下までご連絡ください。

大阪市立大学共生社会研究会 会員 山中鹿次  
Email: [yamashika0217@gmail.com](mailto:yamashika0217@gmail.com)

## ACES 第2巻第5号

〒558-8585  
大阪市住吉区杉本3-3-138  
大阪公立大学  
人権問題研究センター気付  
大阪市立大学共生社会研究会

研究会のホームページ  
2025年1月開設  
随時アップデート

以下のURLに、ぜひ一度  
アクセスしてみてください！

<https://coexisting1.wixsite.com/academy>

### シリーズ:「私の研究・活動」

#### 大学教員らの労働闘争

会計担当理事の矢野です。共生社会領域博士後期課程満期退学です。現在、大阪府立大学(現大阪公立大学)に新たに入学し博士後期課程に在籍しています。(既に市大は閉じていたので論博が無理になったため)。現在は、労働組合、とりわけ「大学教員らの労働闘争」のテーマで研究しています。

昨今では、非正規雇用の労働者の問題が顕在化され、労働組合の意義も少しずつ確認されるようになってきました。大学も例外ではなく、国の方針通り、非正規雇用が増えてきました。このような非正規化は正規雇用の大学教員らもその影響を受けています。例えば、あちらこちらの大学で退職に追い込もうとする事案が増えており、労働裁判に至っています。体制的な大学はこのようなパワハラ的環境が常態化しているようですが、民主主義や共生を掲げる一部の大学は、依然として労働組合が活発です。

現在、私は立命館大学の客員研究員ですが、立命館も自由で民主主義の校風のなか、ハイレベルの研究機関を保ちつつ労働組合の活動は活発なようです。大学が民主主義でなければ、民主主義志向の学生が育つわけがありません。それゆえ、私はこのテーマに尽力したいと思っています。

矢野裕子(やの ゆうこ)

### Coming Soon! 講演会・シンポ

#### ▲変貌するDEIとNPOに関するアメリカの政策▼ — 第2次トランプ政権発足から1年 —

第2次トランプ政権の発足から1年に当たり、DEI(Diversity, Equity and Inclusion)やNPOに関する政策がどのように変わり、それに対してDEIやNPOの当事者はどう考え、対応しているのでしょうか。また、アメリカにおけるこの変化は、日本社会にも及ぶのでしょうか。これらについて考えてみたいと思います。

- ・日時:2026年1月20日(火)19時30分—21時
- ・司会:堅田利明氏(関西外国语大学短期大学部准教授)
- ・スピーカー:柏木宏氏(大阪市立大学名誉教授・本研究会会長)

#### ▲家庭・地域社会における男性育児・介護▼

##### ~連携・プログラムのあり方を探る~

全国の女性/男女共同参画センターに関する最新の実態調査を基に、指定討論者・コメンテーターと連携やプログラムのあり方を探ります。男性の育児・介護参画への支援はどのように進められるべきか、共に考えてみませんか?

- ・日時:2026年2月5日(木)18~20時
- ・モデレーター:柏木宏(大阪市立大学 名誉教授)
- ・登壇者(50音順):伊田広行(社会学者)、城田忠(東亜大学 准教授)、古山陽一(国際医療福祉大学 専任講師)、山極清子(wiwiiw, Inc. 会長)

#### ▲多文化共生、多様性理解、共生社会の実現に向けて▼

##### ~吃音を伴って話す人への専門的支援から~

総合病院の小児科領域で言語聴覚士として勤務していました。吃音を伴って話す子どもとその保護者・家族、園や学校の先生、各専門家への吃音の理解啓発のひとつとして吃音の講習・研修をこれまで担ってきました。共生社会を柱に据え、これまでの取り組みをふり返しながら整理したものをお伝えできればと考えています。

- ・日時:2026年3月22日(日)19時30分—21時
- ・司会:柏木宏氏(大阪市立大学名誉教授・本研究会会長)
- ・スピーカー:堅田利明氏(関西外国语大学短期大学部准教授)

いずれもオンライン開催で、参加費は無料。関心のある方は、どなたでも参加できます。お申し込み方法など詳細は、以下のウェブサイトをご確認ください。

ウェブサイト: <https://x.gd/ZnTxw>

お問い合わせ: coexisting.academy@gmail.com

:編集後記:会員の皆様、旧年中は大変お世話になりました。誠にありがとうございました。本来なら、新年のごあいさつを「明けましておめでとうございます」とさせていただくのがよいのかと考えました。しかしながら、各地の紛争や侵略等、とても、そのようには記し難い世界情勢から、控えさせていただきました。このような状況だからこそ、多様な方たちと互いに尊重し合い、対話を深化させていかなければならないのだと、改めて痛感しています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(武輪敬心)